

お陰様で今年の入学試験も無事に終了いたしました。昨年以前は、六年生諸君が試験当日、園児の誘導、その他の仕事の助っ人に来てくれていました。

泣いている園児に優しく「頑張れば100点なのに、このまま泣いていると、今までの苦労が0点になっちゃうよ。」などと、粋(いき)な声をかけてくれる六年生がいてくれて、それに元気づけられ試験場に向かう気になった園児。その他数々のドラマを六年生が演出してくれていたのを毎年目にしてきましたが、残念ながらコロナ禍のために、昨年続き、今年度も六年生の活躍の場はありませんでした。なんとも寂しい限りです。

受験家庭には前もって検温表をお渡ししました。当日の入校時にも検温、消毒はもちろんのこと、感染防止の一環として水筒も用意していただきました。

換気のために窓を開けていることが多いため、長袖・長ズボンのあたたかな服装でお越しいただくように呼びかけました。

集合場所の講堂では間隔をあけて着席。いよいよ試験場に向かうという直前、学校が配布した抗菌シートで園児の手指の消毒をしていただいでから出発。

本校の保健室には、具合の悪くなった園児や、元気をなくした園児用に、くるまれば合格間違いないという「魔法のブランケット」

が用意されています。歴代園児の血と汗と涙!?!の染みついたブランケットでは、感染防止上よろしくなろうということで、新品のブランケットを昨年二十枚購入していましたが、今年度の入学試験では一枚も使用せずに済みました。例年、養護教諭が走り回って対応するような案件が複数発生するのですが、今年度はほぼ無しの状態でした。これもひとえに受験児の保護者の皆様の健康管理の賜物と感謝申し上げます。



本校では入学試験からその後の数日間、ハーフタイム・ホリデーという休業に入ります。子どもたちが各家庭において、秋のすがすがしさを肌で感じ、普段できないようなことにじっくりと取り組むための休業です。

子どもたちは、しっかりと休養をとる、読書をする、家族の一員としてお手伝いに励む等の有意義な時間を過ごすこと、学校に戻ってきてくれたようです。

ハーフタイム・ホリデー終了後から、通常の時間割に戻し、クラブ活動や委員会活動も再開しました。まだ、縦割りの行事は再開してはいませんが、ほぼ日常の学校生活に戻りつつあります。

十一月八日(月)。この日、校長の講話を映像ではなく、グラウンドで初めて対面で行

いました。通常は、縦割りの隊形で集合するところですが、上級生が下級生に目配せできるように配置で、学年ごとに並んでもらいました。一・二年生は、全校生でグラウンドに集合するのは初めての体験です。二年生のあるお子さんは、「立教小学生って、こんなにいるんだねえ。」と感想をもらしていたとか。初めての外朝礼で、短く三つのお話をさせていただきます。

一、大勢で並んで、誰かが前に立った時は、その人におへそを向ける。目を向ける。心を向ける。しゃべらない。二、大学の先生から伺った話。心の病にかかりにくくなるためには、腰を立て、背筋を伸ばしてまっすぐ前を見るのが大切。イメージとしては頭の上の糸がついていて、それを上からグッと引張ってもらっている感じで、腰や背筋を伸ばすこと。三、ハーフタイム・ホリデー前にお話しした、鳥の雁のように、上級生がリーダーとして、本物の勇氣を持って下級生の面倒を見てくれるとありがたい。明日から、私も体育館の見守りに立つので、ほとんど活動の場がなかった前期の委員の方々に、自分から進んで助けてくれる人が出てくれたらうれしい。

子どもたちの息遣いを感じつつ話しながら、チャップリンの「うつむいたままでは虹は見つけられない。」という言葉を思い出していました。(立教小学校校長 田代 正行)